

ムーディーズによる米国債格下げについて

「Aaa」から「Aa1」へ引き下げ、見通しは「安定的」

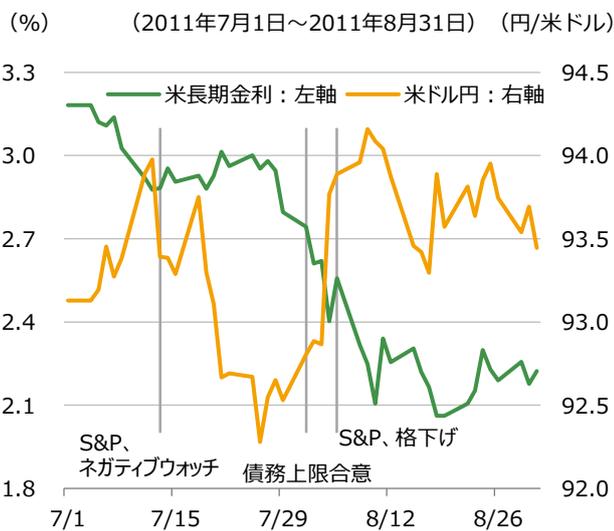
2025年5月19日

2011年格下げ時と比較すれば、金融市場への直接的な影響は限定的

格付け会社ムーディーズ・レーティングスは5月16日（現地時間）、米国の長期信用格付けを最上位の「Aaa」から「Aa1」に1段階引き下げました（格付け見通しは「安定的」）。同社は格下げの理由として、「歴代の政権と議会は巨額の財政赤字と金利負担の増加傾向を反転させる措置で合意できなかった」とした上で、「現在検討されている財政案では、義務的支出と財政赤字の複数年にわたる大幅な削減は実現しない」ことを挙げました。他方、ベッセント財務長官は格付け会社の判断を「遅行指標」と一蹴しています。その他の格付け会社では、S&Pグローバル・レーティングが2011年に、フィッチ・レーティングスは2023年に格下げ済みです。今回のタイミングはやや予想外だったものの、追隨の域を出ません。

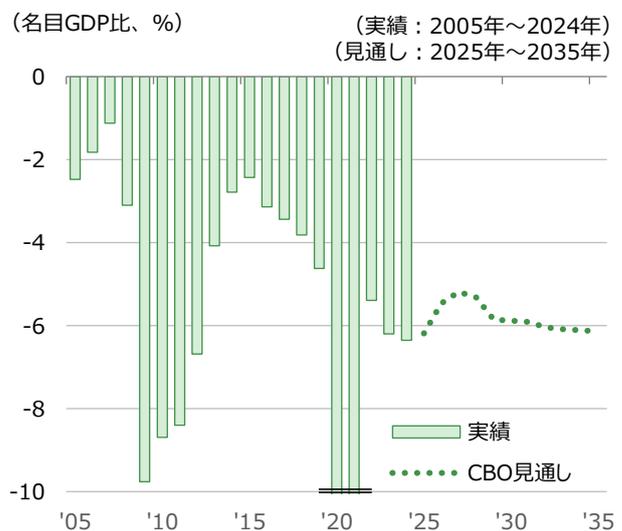
格下げ発表直後に米ドル安と米金利上昇が進みましたが、「米国債ショック」とも呼ばれた2011年の格下げと比較すると、金融市場に及ぼす影響は限定的と思われる。理由として、第1に、2011年時は1941年以来となる最上位格付けの喪失であり、象徴的なイベントとなりました。第2に、流動性や市場規模の観点から、格付けの高低が金利の高低に直結するとは限りません。市場規模が大きく、流動性の高い米国債は、ベンチマーク債としての位置づけを維持すると考えられます。トランプ政権の場当たり的な政策で米ドル・米国債離れの動きは一部に燦るものの、今回の格下げが米国債の売却を促す要因となるリスクや、米ドルの基軸通貨としての価値を損なうリスクは限定的と考えられます。

2011年S&P格下げ時の債券・為替市場



(出所) ブルームバーグ

米財政赤字



(出所) CBO

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。